

## 【活動報告】

東京都公文書館 企画展示

# 「資料が語る世田谷 ～名所・旧跡から東京オリンピック 1964 まで」

東京都公文書館 史料編さん担当

馬場 宏恵

### 1 開催の経緯と目的

東京都公文書館は、平成 24 年（2012）世田谷区玉川に仮移転し、東京都の歴史的公文書等の保存・公開を行ってきた。その間、国分寺市において新館建設を進め、令和 2 年（2020）4 月に新公文書館の開館を予定している。

世田谷区玉川における事業実施の最終年度にあたり、世田谷の歴史と文化に焦点を当てた企画展「資料が語る世田谷～名所・旧跡から東京オリンピック 1964 まで」を開催した。

開催期間は令和元年（2019）7 月 18 日（木）から 9 月 17 日（火）までの 62 日間とし、夏休み期間中であるため、幅広い年齢層の見学者を対象とした。

本稿では展示構成に沿ってその概要を紹介することとしたい。



ポスター

### 2 展示構成と内容

展示は、「Ⅰ書物に描かれた世田谷」、「Ⅱ近代化する世田谷」、「Ⅲオリンピックと駒沢」の三部構成であった。江戸時代から名所・旧跡として知られている場所、明治維新後近代化していく様子や区域の形成、最後に昭和 39 年（1964）に開催された東京オリンピックとの関わりを紹介しながら、歴史の中の世田谷区域に光を当てた。

#### Ⅰ 書物に描かれた世田谷

江戸時代、大都市江戸の近郊に位置した世田谷区域は、荏原郡・多摩郡にまたがる 42 か村からなる広大な農村地域であった。現在でも大小の河川や土地の起伏など、豊かな地理的環境を目にすることができる。

そのなかで、この世田谷区域は地域住民が暮らす日常生活の場であるだけでなく、江戸への消費物資の供給地、甲州道中・大山道や玉川など交通・流通網の中継地、古代から続く旧跡や神社仏閣の名所、豊かな自然景観溢れる行楽地など、さまざまな顔を持っていた。このコーナーでは、当館所蔵の書物（版本、写本）を中心に、世田谷区域の村々の概観と、案内

記や地誌で描かれた著名な名所・旧跡、伝説、文人墨客の紀行文まで、世田谷区域の魅力の一端を紹介した。

『江戸名所図会』などに描かれた名所の絵をパネルにして展示した。上北沢の牡丹は二代目歌川広重こと喜斎立祥「三十六花撰 東京北沢牡丹」として描かれたのははじめ、多くの名所案内記で紹介されるほど、世田谷区域を代表する名所だった。奥沢村の九品仏の卯の花も有名だった。

この他、「喜多見村の蛇除守」、「常盤橋」「北沢淡嶋明神社」にまつわる言い伝えを名所記、地誌を用いて紹介した。12代将軍徳川家慶による玉川遊猟にお供した奥儒者成島司直が、瀬田村名主宅の庭で紙漉きを見学した記録（『玉川遊記』）や、文化5年（1808）から翌年にかけて江戸時代の文人として著名な大田南畝が幕府勘定方役人として玉川水防を巡視した時の記録（『調布日記 附録』）も展示した。

また『東京府志料』を用いて、村々の人口や産物を「世田谷区旧荏原郡域 村別産業情報一覧」の表にまとめた。明治5年（1872）、陸軍省が国勢を把握するため各府県の地図・地誌の編纂を企画し、その調査・編さんを各府県に命じた。これを受けて東京府が調査しまとめた報告の控えが『東京府志料』である。明治初年における各町村の概況をうかがうことができる。

## II 近代化する世田谷

このコーナーでは、内容を3つのテーマ「明治初期世田谷の諸相」「ムラからマチへ」「市域拡大と世田谷区の誕生、そして戦後へ」に分けて取り上げた。明治から大正、昭和へと移行行く時代を、世田谷がどのように駆け抜けていったのか、当館所蔵資料から追った。

「明治初期世田谷の諸相」では最初に『渡辺府知事管内巡回記』を取り上げた。明治18年（1885）の暴風雨後、東京府知事渡辺洪基は府下六郡を巡察した。11月5日から6日にかけて荏原郡下を巡っており、5日の午後1時頃から下馬引沢村・上馬引沢村・若林村を通過して世田谷・経堂在家連合村戸長役場、用賀村京西学校、用賀・瀬田連合村戸長役場を訪問した。瀬田村戸長の長崎長十郎方に宿泊して、6日の早朝から瀬田村や下野毛村の飛地、等々力村、野良田・上野毛・下野毛・等々力連合村、奥沢・尾山連合村などを訪れている。このコーナーでは、渡辺の記録から当該地域の様相を明らかにした。

続いて、世田谷区域の学校について取り上げた。明治5年（1872）「学制」が發布され、政府は開学していた家塾や学校に「開学届」や「開学明細書」の提出を求めた。「開学届」を提出した世田谷区域の学校や塾を一覧表のパネルにし、一例として、太子堂村で開学した「郷学所」の明細書を展示した。

「ムラからマチへ」では、東京近郊農村だった世田谷区域が東京の人口拡大とともに変化していく様子を取り上げた。江戸享保期から御鷹場であった駒場野は、幕末から明治にかけて軍事調練用地になった。その後、明治24年（1891）に騎兵第一大隊（後に連隊）が移転してきて、以来、次々と軍事施設ができた。この軍事施設をパネル上に示した。



世田谷豪徳寺『江戸名所図会』第8冊



大蔵村石井氏園中杉菴図  
『武州荏原郡北沢村密蔵院図』  
(国立国会図書館ウェブサイトより)

また、明治29年（1896）の玉川砂利電気鉄道株式会社軌道布設請願書の路線図や玉川電気鉄道世田谷線工事施工認可申請の資料も展示し、鉄道路線の拡大を紹介した。



玉川電気鉄道世田谷線路線平面図『地方鉄道』

さらに郊外住宅の展開を取り上げた。田園都市株式会社発行のパンフレット『理想的住宅地案内』には、裏面に整地中の風景「田園都市全図」が描かれ、東京市の人口過密状態による弊害を避け「理想郷」を建設すると、その目的がうたわれている。開発地としては「荏原郡足洗池付近」、「同郡碑倉村大岡山一帯および同郡調布村」、「玉川村」にわたる多摩川沿い一帯の地を想定し、私設鉄道（後の東急東横線）開設にも言及しており、今日の世田谷から大田区域にかけての街づくりがここから始まったことがうかがえる。このほか同潤会の松陰分譲住宅案内パンフレット（昭和11年（1936））も展示し、住宅の特徴や間取りを紹介した。



砧村千歳村合併記念祝賀会  
『東京市域拡張史原稿 千歳村砧村編入 全1冊』

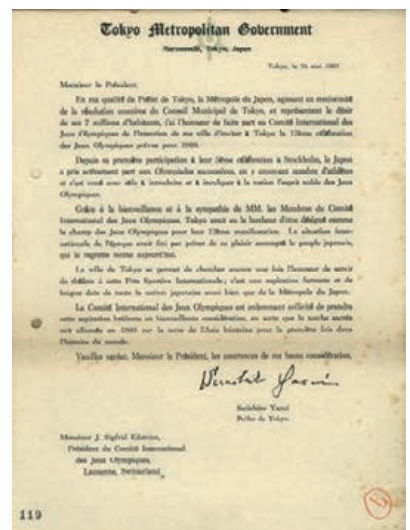
「市域拡大と世田谷区の誕生、そして戦後～」では、昭和7年（1932）10月1日の世田谷区の誕生を紹介した。区域編成をめぐって玉川村

の有志は、東京府知事宛てに「新東京市ニ対スル独立区設置請願」を提出する。玉川村は田園都市構想によって衛星都市化を目指していたため、東京市に編入されることを想定していなかったが、東京市への編入に伴い、単独区を目指したことが記録されている。

昭和11年（1936）10月1日には、北多摩郡千歳村・砧村が世田谷区に編入された。両村の編入祝賀会会場入場門の様子を写真によって見ることができる。

### Ⅲ オリンピックと駒沢

最後のコーナーでは、東京オリンピックと世田谷区の関わりを取り上げた。昭和39年（1964）、東京で第18回オリンピック競技大会が開催された。世田谷区内には、馬術が行なわれた馬事公苑や、マラソンコースとされた甲州街道など、競技の舞台となった地が数多い。そのなかでも区内最大規模の会場といえるのが、バレーボールやレスリングなどが行なわれ



1964 東京オリンピック招致文

た駒沢オリンピック公園総合運動場であろう。

同運動場は、大会の開催に合わせ東京都が整備した。現存する施設の大半はこのとき建設されたが、同地とスポーツのつながりは古く、大正期にゴルフ場が開設されたところまでさかのぼる。戦後、一時期はプロ野球の試合が行なわれた球場も存在した。

また、駒沢は昭和15年（1940）に予定されていたいわゆる「幻のオリンピック」とも関わりがある。そのため展示では、戦前のオリンピックに関する資料も紹介した。昭和11年（1936）東京市オリンピック招致使節記録写真（複製）を展示した。これは昭和15年（1940）のオリンピック開催地を決める国際オリンピック委員会の総会へ、東京市が派遣した使節団の写真である。総会はベルリンで行われ、東京開催が決定された。しかし日中戦争の開始など国際情勢の悪化から、昭和13年（1938）7月、政府は大会返上を決定し、幻のオリンピックとなった。

このとき計画されたメインスタジアムは、現在の駒沢オリンピック公園総合運動場にあたるエリアが建設予定地とされていた。当時の様子をご覧いただけるように、昭和12年の東京近傍1万分1地形図を接合して床面に貼り、幻のオリンピックの時代を再現した。

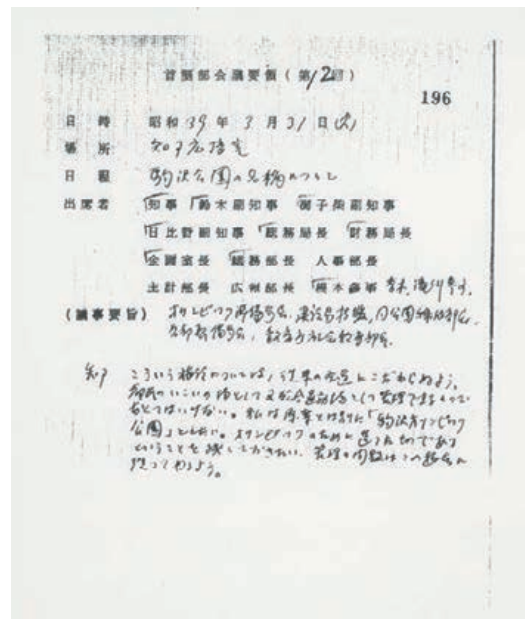
駒沢オリンピック公園総合運動場の完成は、大会開催を目前に控えた昭和39年夏だった。敷地内には、世田谷区民や区役所で構成する「オリンピック東京大会世田谷区協力会」が寄贈した花時計も設けられ、長らく会場に彩りを添えた。この花時計は現存していないが、当館で所蔵している設計図をみると、時計の長針に世田谷区の紋章、短針には東京都紋章をそれぞれあしらったものであったことが確認できる。

その他世田谷区に点在する、1964年大会ゆかりの場所を横長の大幅パネルにして紹介した。

#### IV 1階ロビーコーナーにおける展示その他

メイン会場（2階展示スペース）の他、1階のロビー及び廊下では、世田谷区行政区画の変遷や昭和30年代初めの写真と同じ位置での現在の写真を並べその変化を紹介した。

さらに「昭和30年代初めの世田谷～玉川通りを中心に」を上映した。これは「東京の変ぼう」と題し、都市化が進む世田谷を写した東京都文化スライドを編集作成した動画で、半世紀以上前の世田谷のすがたが、来館者の注目を集めていた。



駒沢オリンピック公園の名称を決定した首脳部会議の記録「駒沢公園の名称について」



### 3 成果と課題 アンケート結果から

本展示期間 62 日間のうち開館日数 42 日間の来館者は 943 名を数えた。そのうち、アンケートに回答した方の年齢層をみると、10 代 4 %、20 代 9 %、30 代 11 %、40 代 13 %、50 代 23 %、60 代 20 %、70 代以上 20 %であり、50 代以上が 6 割を占めた。若い世代が少ない最大の理由は、平日のみの開館、かつ 17 時閉館という点であろう。

展示内容については、大変良かった 37 %、よかった 52 %、ふつう 10 %、もう少し 1 %と、全体的には好評を得た。

企画展を知ったきっかけは、図書館等の施設へ配布したチラシが 29 %と高く、また当館入口や門扉に掲示したバナーやポスターが 25 %であった。

来館者は、世田谷在住及び元在住の方が多く「世田谷区の資料をこのようにしてみることができてよかった」との意見が多かった。江戸時代から続くさまざまな事象が今に続いていることがわかる資料、学校に関する資料、軍事施設に関する資料への関心が集まった。また、オリンピック関係資料は、テレビの大河ドラマのテーマと丁度重なり、タイムリーだったとの意見が見られた。

展示内容以外では、土日祝日開館を希望する声が多く、また展示会場の狭さを指摘する声もあり、移転後の新公文書館への課題となった。国分寺市への移転に関しては、「世田谷区からの移転は残念」との意見や、新公文書館の施設に期待する意見とさまざまであった。

アンケートには、期待する展示についてさまざまな声をいただいた。今後の参考にさせていただきたい。最後に、今回の展示の出品リストを付して報告を終わりたい。

東京都公文書館企画展「資料が語る世田谷～名所・旧跡から東京オリンピック 1964 まで」資料一覧

会期：令和元年 7 月 18 日～令和元年 9 月 17 日

I 書物が描く世田谷

【パネル】

「パネルタイトル」

タイトル	資料名・簿冊名等／所蔵館名	年代	請求番号
「I 書物に描かれた世田谷」	武陽玉川八景之図／東京都立中央図書館特別文庫室		015-C13/ 東C015-C013
「江戸傍近図」	江戸傍近図／東京都公文書館	寛政年中	Z A-118
「江戸時代の地理と産業」			
世田谷区旧荏原郡域 村別産業情報一覧	『東京府志料 第十八』／東京都公文書館	明治7年(1874)	DC-043
府中瓜・山西瓜	『続江戸砂子 巻之一』／東京都公文書館	享保20年(1735)	DA-243
玉川の鮎	『松の葉』／国立国会図書館	天保3年(1832)	830-170
「名所記・地誌に描かれた名所・旧跡」			
世田谷区歴史文化財マップ			
世田谷区蒙徳寺(世田谷村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
奥澤村浄真寺九品佛(奥沢村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
北澤栗島社(北沢村)・池尻祖師堂(池尻村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
常盤橋(世田谷村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
満願寺(等々力村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
馬牽澤古事(馬引沢村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
代太橋(代田村)	『江戸名所図会 九』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-28
和泉村壺泉(和泉村)	『江戸名所図会 八』／東京都公文書館	天保5年(1834)	047-27
三十六花撰 東京北沢牡丹	『三十六花撰 東京北沢牡丹』／国立国会図書館	明治	寄別2-7-1-7
牡丹・卯の花	『東都歳時記 夏 三』／東京都公文書館		C I -213
「紀行文に記録された名所・旧跡」			
同村(上北沢村) 某家藤架図	『武州荏原郡北沢村密蔵院図』／国立国会図書館	文化10年(1813) 亥	亥-158
同村(上北沢村) 鱸左内亭遠望図	『武州荏原郡北沢村密蔵院図』／国立国会図書館	文化10年(1813) 亥	亥-158
矢倉沢道二子渡	『武州荏原郡北沢村密蔵院図』／国立国会図書館	文化10年(1813) 亥	亥-158
大蔵村石井氏園中杉菴図	『武州荏原郡北沢村密蔵院図』／国立国会図書館	文化10年(1813) 亥	亥-158
同多摩郡大蔵村内玉川涯望	『武州荏原郡北沢村密蔵院図』／国立国会図書館	文化10年(1813) 亥	亥-158
荏原郡瀬田村行善寺遠望図	『武州荏原郡北沢村密蔵院図』／国立国会図書館	文化10年(1813) 亥	亥-158
垂徳舎園中図(大蔵村)	石井盛時撰 『玉川紀行』／国立国会図書館	文化10年(1813)	す-48
大蔵村地理図	石井盛時撰 『玉川紀行』／国立国会図書館	文化10年(1813)	す-48

【展示ケース】

タイトル	資料名・簿冊名等／所蔵館名	年代	請求番号
常盤橋	『江戸総鹿子 巻二 下』／東京都公文書館	元禄2年(1689) 自序	DB-271
蛇除守	『武蔵名勝図会 第四(写本)』／東京都公文書館	文政3年(1820)	C I -228
北沢淡嶋明神社	『絵本江戸めぐり 完』／東京都公文書館	弘化3年(1846) 序	C I -419
玉川遊記(東京府文献叢書甲集二十三)	『東京府文献叢書甲集二十三』／東京都公文書館	天保3年(1832)	DB-025
調布日記 附録(東京府文献叢書甲集四十三)	『東京府文献叢書甲集四十三』／東京都公文書館	文化6年(1809)	DB-048

II 近代化する世田谷

【パネル】

「パネルタイトル」

タイトル	資料名・簿冊名等／所蔵館名	年代	請求番号
「II 近代化する世田谷」	東京府管内全図(明治十二年)(帙書：明治十二年 東京府管内全図)／東京都公文書館	明治10年(1877)	654-06-14(Z H-551)
「明治初期世田谷の諸相」			
東京府新町村色分図(世田谷区域)	東京府新町村色分図 附録絵図 大泉村図及び世田谷区域図／東京都公文書館	明治22年(1889)	654-11-37 (Z H-36-564)
「渡辺洪基府知事による管内巡回」			
渡辺府知事管内巡回地図	渡辺府知事管内巡回記 (庶務課) 明治18年7月／東京都公文書館	明治18年(1885)	614. B 2. 10

「明治初期の学校家塾一覧」	一覧表 参考文献 「明治10年6～8月「明治6年開学願書」「私学校明細簿」『世田谷近・現代史』昭和51年		
	私学校明細簿・第2・朱引外（学務課）／東京都公文書館	明治10年(1877)	608. A 3. 25
	開学願書・4号（庶務掛学務取扱）明治6年2月／東京都公文書館	明治6年(1873)	606. C 4. 04
	開学願書・18号（庶務掛学務取扱）明治6年2月／東京都公文書館	明治6年(1873)	606. C 4. 18
	開学願書・20号（庶務掛学務取扱）明治6年8月／東京都公文書館	明治6年(1873)	606. C 4. 21
	家塾開業願（学務課）／東京都公文書館	明治6～9年(1873～1876)	606. C 5. 06
	開学明細簿・第3番中学区（学務掛）明治6年1月／東京都公文書館	明治6年(1873)	606. C 3. 08
「ムラからマチへ」			
人口の推移(明治初期～昭和20年)	グラフ参考文献 世田谷区編『世田谷近・現代史』昭和51年、世田谷区政策経営部広報広聴課編『世田谷区政概要2018』平成30年		
玉川電気鉄道世田谷線路線平面図	『地方鉄道』／東京都公文書館	大正12年(1923)8月	306. F 8. 25
「世田谷に移転してきた軍事施設一覧」	一万分ノ一東京近傍図 世田谷 十八(豊多摩郡、荏原郡) (内題: 世田谷(一万分之一地形図) 東京近傍十八号共九冊 大正六年発行 大日本帝国陸地測量部) (大正六年 東京近傍図) (帙書: 大正六年東京近傍図) / 東京都公文書館	大正6年(1917)	654-07-08 (Z D-018)
	理想的住宅地案内(田園都市全図)	各所住宅地計画実例／東京都公文書館	U 519. 8- か-4198
「同潤会による住宅地比較(経堂・駒沢・松陰)」	『同潤会会報』79号(昭和13年3月)、同80号(同年6月)、同87号(昭和15年7月) / 東京都公文書館	昭和13年(1938)、昭和15年(1940)	U 365. 35- ど-3532
「市域拡大と世田谷区の誕生そして戦後へ」			
最新大東京全図(大東京一般図)	最新大東京全図(昭和七年 川流堂小林又七)(箱書: 最新大東京全図 二万分之一 昭和七年十月) / 東京都公文書館	昭和7年(1932)10月	654-06-58
世田谷区役所(昭和12年頃)	『東京市域拡張史原稿 千歳村・砧村編入 全1冊』 / 東京都公文書館	昭和12年(1937)頃	319. C 5. 02
大東京名勝交通地図	昭和八年一月 大東京名勝交通地図 全三十五区(八十二ヶ町村合併) (大東京完成地図刊行会) (袋書: 大東京名勝交通地図 全三十五区(八十二ヶ町村合併) 昭和八年一月発行 大東京完成地図刊行会)	昭和8年(1933)	654-06-60
砧村・千歳村合併記念祝賀会(昭和11年)	東京市域拡張史原稿 千歳村・砧村編入 全1冊 / 東京都公文書館	昭和11年(1936)	319. C 5. 02
砧村鎌田部落(集落) (昭和12年頃)	東京市域拡張史原稿 千歳村・砧村編入 全1冊 / 東京都公文書館	昭和12年(1937)頃	319. C 5. 02
世田谷区代田2丁目街路築造(昭和26年頃)	破壊から建設へ(失業対策事業写真集) / 東京都公文書館	昭和26年(1951)	労働D 25

【展示ケース】

タイトル	資料名・簿冊名等／所蔵館名	年代	請求番号
東京府史料にみる世田谷(第7大区6小区7小区)	東京府志料 卷之九十 第七大区七小区志 / 東京都公文書館	明治7年(1874)	C I-283(17-D-4-2 (箱番A-27))
渡辺洪基府知事による世田谷区域の巡回	御巡回順路日割『渡辺府知事管内巡回記 (庶務課) 明治18年7月』 / 東京都公文書館	明治18年(1885)	614. B 2. 10
宮野斐平による郷学所	(原議欠) (第3番中学区開学明細簿) 私学明細表 宮野斐平『開学明細簿・第3番中学区 ((学務掛)) 明治6年1月』 / 東京都公文書館	明治5年(1872)11月	606. C 3. 08
玉川砂利電気鉄道路線図	玉川砂利電気鉄道布設の件 内務大臣『第1種文書類纂・土木・鉄道((内務部第二課))』 / 東京都公文書館	明治29年11月18日	622. B 4. 02
玉川電気鉄道世田谷線新設工事施行認可申請	『地方鉄道』 / 東京都公文書館	大正12年(1923)1月20日	306. F 8. 25
松陰分譲住宅案内(世田谷区上馬二丁目)	各所住宅地計画実例 / 東京都公文書館	昭和11年(1936)	U 519. 8- か-4198

東京市編入に向けた調査	編入町村ニ於ケル最近ノ情勢(一)昭和7年6月6日『市域拡張ニ関スル書類 冊の30』/東京都公文書館	昭和7年(1932)	315. F 2. 23
東京市公報にみる世田谷紹介	「新東京プロフィール(六)世田ヶ谷町を中心とする明るい住宅―世田ヶ谷区の巻」『東京市公報』第2124号/東京都公文書館	昭和7年(1932)6月11日	府市公報-複-82(合本)
玉川区独立の請願	新東京市ニ対スル独立区設置請願『区ノ編成ニ関スル意見書類(追録ノ3)』/東京都公文書館	昭和7年(1932)	金子文庫-2281-7
砧村と千歳村にみる合併意見類集録	『東京府北多摩郡千歳村砧村本市編入世田谷区所属ニ対スル関係市区町村意見類集録』/東京都公文書館	昭和10年(1935)11月	金子文庫-2280-9
東京市世田谷学童服配給組合規約	『東京市世田谷学童服配給組合規約』/東京都公文書館/東京都公文書館	昭和16年(1941)	金子文庫-380
世田谷区代田二丁目付近の環状7号線道路工事	代田2丁目の選現場『破壊から建設(失業対策事業写真集)』/東京都公文書館	昭和21年(1951)	労働D 25

### Ⅲ オリンピックと駒沢

#### 【パネル】

#### 「パネルタイトル」

タイトル	資料名・簿冊名等/所蔵館名	年代	請求番号
「Ⅲ オリンピックと駒沢」	第12回オリンピック東京大会東京市報告書/東京都公文書館	昭和14年(1939)	オリンピック-174
「幻の東京オリンピック」			
大会開催の決定を記念して販売された東京市電の切符	第十二回国際オリムピック大会開催東京市決定記念電車往復乗車券/東京都公文書館	[昭和11年(1936)か]	2015. 図書. 000144
「幻のオリンピックで予定されていた競技」			
競技場の配置	『Report of the organizing committee on its work for the XIIth Olympic games of 1940 in Tokyo until the relinquishment』/東京都公文書館	昭和15年(1940)	オリンピック-190
「駒沢競技場建設計画」			
東京市が作成した駒沢競技場完成予想図	『報告書』/東京都公文書館	昭和14年(1939)	オリンピック-176
「オリンピック招致とアジア競技大会の東京開催」			
昭和27年に東京都がIOCに送った招請文	3-7. 1960年オリンピック大会招致文/東京都公文書館	昭和27年(1952)	M04. 05. 01
国立競技場を視察するIOC委員ら関係者	『Pictorial Memories of The 54th Session of I. O. C. 』/東京都公文書館	[昭和33年(1958)]	オリンピック-243
第3回アジア競技大会のチケット	資料 各競技場の入場券見本/東京都公文書館	昭和33年(1958)	M01. 04. 61
「オリンピック東京大会の競技場」	『オリンピック絵新聞 オリンピック東京大会の競技場』/東京都公文書館	昭和38年(1963)	オリンピック-491
「世田谷区内における1964年大会ゆかりの場所」			
「オリンピック関連街路と玉川通り」			
拡幅工事が行われている途中の玉川通り(世田谷区池尻)	特集 近づく東京オリンピック/東京都公文書館	昭和38年(1963)	スライド-463
「オリンピック東京大会世田谷協力会作成ポスター」	[ポスター]XVII OLYMPIAD あたたく 世界の友を迎えよう!/東京都公文書館	[昭和39年(1964)か]	オリンピック-493

#### 【展示ケース】

タイトル	資料名・簿冊名等/所蔵館名	年代	請求番号
昭和11年東京市オリンピック招致記念写真(複製)	[写真]/東京都公文書館	[昭和11年(1936)]	佐藤栄志115
主競技場駒沢移行案可決(複製)	『東京市公報』第2993号/東京都公文書館	昭和13年(1938)5月10日	
駒沢競技場模型写真	『東京市紀元二千六百年奉祝記念事業志』/東京都公文書館	昭和16年(1941)	市刊L 126
駒沢公園基本計画図(複製)	【オリンピック】駒沢公園の建設基本計画について(通知)/東京都公文書館	昭和36年(1961)	L 05. 05. 07
駒沢オリンピック公園の命名(複製)	『第18回オリンピック競技大会東京報告書』/東京都公文書館	昭和40年(1965)3月	オリンピック-148
駒沢公園オリンピック公園の名称を決定した首脳部会議の記録(複製)	駒沢公園の名称について/東京都公文書館	昭和39年(1964)	328. B 2. 05



東京オリンピックにそなえて	東京オリンピック関係（ガイドブック・パンフレット）／東京都公文書館	[昭和38年(1963)]	総務E 307
TOKYO1964	東京オリンピック関係（ガイドブック・パンフレット）／東京都公文書館	[昭和38年(1963)]	総務E 307
駒沢公園オリンピック公園花時計設計図(複製)	【オリンピック】公園予定地に設ける物件の占用許可について／東京都公文書館	昭和39年(1964)	M04. 07. 05

【床貼り地図】

資料名	所蔵館名	年代
1万分1地形図東京近傍50号「井之頭」	国土地理院	昭和12年(1937)測図
1万分1地形図東京近傍51号「成城」	国土地理院	昭和12年(1937)測図
1万分1地形図東京近傍52号「登戸」	国土地理院	昭和12年(1937)測図
1万分1地形図東京近傍43号「上高井戸」	国土地理院	昭和4年(1929)測図、同12年(1937)修正測図
1万分1地形図東京近傍44号「経堂」	国土地理院	昭和4年(1929)測図、同12年(1937)修正測図
1万分1地形図東京近傍45号「二子玉川」	国土地理院	昭和4年(1929)測図、同12年(1937)修正測図
1万分1地形図東京近傍46号「溝口」	国土地理院	昭和4年(1929)測図、同12年(1937)修正測図
1万分1地形図東京近傍35号「中野」	国土地理院	明治42年(1909)測図、昭和12年(1937)第4回修正測図
1万分1地形図東京近傍36号「世田谷」	国土地理院	明治42年(1909)測図、昭和12年(1937)第4回修正測図
1万分1地形図東京近傍37号「碑文谷」	国土地理院	明治43年(1910)測図、昭和12年(1937)第4回修正測図
1万分1地形図東京近傍38号「田園調布」	国土地理院	昭和4年(1929)測図、同12年(1937)修正測図

【1階ロビー】

タイトル	
世田谷区行政区画の変遷(町名変更と区域の境界変更)	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
世田谷区行政区画の変遷(町名変更)	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
明治22年成立の近代6ヶ村の図	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
東京市編入前町村の大字とその飛地	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
世田谷区行政区画の変遷(区域の境界変更)	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
世田谷区を形成した幕末の村一覧表	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
世田谷区を形成した幕末の村一覧表(荏原郡)	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
世田谷区を形成した幕末の村一覧表(玉郡)	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
昭和20年以前の耕地整理もしくは区画整理組合設立認可状況	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
戦前東京の最大規模の土地整理～玉川全円耕地整理事業	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
玉川通り 昔の風景・今の風景	参考文献『世田谷の地名』(上・下)世田谷区教育委員会、昭和59年(1984)
畑の中の舗装道路(世田谷区瀬田五丁目)	文化スライド第64輯「東京の変ぼう(二)」(昭和32年(1957))／東京都公文書館 及び現在の写真(平成29年(2017))
新しい映画館(世田谷区用賀四丁目11番地)	文化スライド第64輯「東京の変ぼう(二)」(昭和32年(1957))／東京都公文書館 及び現在の写真(平成29年(2017))
三軒茶屋の賑わい(世田谷区太子堂)	文化スライド第64輯「東京の変ぼう(二)」(昭和32年(1957))／東京都公文書館 及び現在の写真(平成29年(2017))
玉電沿線の風景(世田谷区桜新町一丁目13番地)	文化スライド第64輯「東京の変ぼう(二)」(昭和32年(1957))／東京都公文書館 及び現在の写真(平成29年(2017))
スライド上映 昭和30年代初めの世田谷 ～玉川通りを中心に	文化スライド第64輯「東京の変ぼう(二)」(昭和32年(1957))／東京都公文書館 (画像をスライドショーに編集)

※本報告書の著作権は東京都にあります。「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。